

平成 21 年 4 月 28 日

各 位

会 社 名 株式会社コスモスイニシア
代表者名 代表取締役社長 町田 公志
(JASDAQ コード 8844)
問合せ先 グループ戦略室長 野崎 勇一
(TEL. 03-3580-2680)

たな卸資産評価損及び事業再生損失の計上に関するお知らせ

当社は、平成 21 年 4 月 28 日開催の取締役会におきまして、平成 21 年 3 月期におきまして、たな卸資産評価損及び事業再生損失の計上について下記のとおり決議いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 内容

当社は、平成 21 年 4 月 28 日付で公表しております「事業再生に向けた今後の方向性に関するお知らせ」に記載のとおり、平成 21 年 3 月期におきまして、たな卸資産評価損 110 億円を売上原価に計上するとともに、今後の事業再生を目指すにあたり、抜本的に事業内容を見直したことによる販売用不動産の簿価切下げ額 412 億円、固定資産の減損損失 53 億円、関係会社株式評価損 53 億円に加え、早期退職費用 15 億円や拠点統合に伴う移転費用 4 億円等を含めた合計 24 億円を今後の事業再生に向けた追加負担額として見込み、総額 542 億円を事業再生損失（特別損失）として個別損益に計上する見込みであります。

なお、連結損益におきましても同様に、たな卸資産評価損 110 億円を売上原価に、事業再生損失 523 億円を特別損失に計上する見込みであります。

(1) たな卸資産評価損

平成 21 年 3 月期第 3 四半期におきまして、たな卸資産評価損 156 億 81 百万円を計上いたしましたが、対象物件の売却が進んだことにより、平成 21 年 3 月期におきましては、たな卸資産評価損 110 億円を売上原価として連結損益及び個別損益に計上する見込みであります。

(参考) たな卸資産評価損計上額の推移

平成21年3月期第 1 四半期	2億71百万円
平成21年3月期第 2 四半期	39億38百万円
平成21年3月期第 3 四半期	156億81百万円

(2) 事業再生損失

事業再生損失の主な項目、計上理由は以下のとおりであります。

① 販売用不動産の簿価切下げ額

今後の事業再生を目指すにあたり、上記たな卸資産評価損に加え、事業再生 ADR 手続において、事業の中止、撤退等を含めた抜本的な事業内容の見直しを行ったことによる販売用不動産の簿価切下げ額 412 億円を連結損益及び個別損益に計上する見込みであります。

② 減損損失

今後の事業再生を目指すにあたり、当社が将来売却する方針である固定資産について、当該固定資産の帳簿価格を回収可能価額まで減額し、当該減少額 53 億円を減損損失として、連結損益及び個別損益に計上する見込みであります。

③ 関係会社株式評価損

今後の事業再生を目指すにあたり、海外事業から撤退する方針であることから、当社連結子会社である Cosmos Australia Pty. Ltd. におきまして、事業撤退に伴う損失 34 億円を連結損益に計上する見込みであります。また、これに伴い当社が保有する同社株式の実質価額が著しく下落したことにより、関係会社株式評価損 53 億円を個別損益に計上する見込みであります。

④ 追加負担額

今後の事業再生を目指すにあたり、早期退職費用 15 億円や拠点統合に伴う移転費用 4 億円等を含めた合計 24 億円を追加負担額として連結損益及び個別損益に計上する見込みであります。

2. 業績への影響

当該特別損失の計上により、平成 21 年 3 月期におきまして、連結で 440 億円、個別で 527 億円の債務超過となる見通しであります。

通期の業績予想（連結・個別）につきましては、平成 21 年 4 月 28 日付で「業績予想の修正に関するお知らせ」を公表しておりますので、そちらをご参照ください。

また、同日付で「事業再生に向けた今後の方向性に関するお知らせ」を公表しておりますので、あわせてご参照ください。

以 上